

# サマータイムの導入



発表者

D班(井手、小穴、小貫、成川、安田)

# 記事の要約

- 北海道でサマータイムが実験的に導入された。
- 期間は6月21日～8月11日の間の52日間で、今年で3年目。
- 今年で実験は最後の予定だが、参加者の意見によっては来年以降の継続を考える事となっている。

# サマータイムとは



- 夏季の長い日照時間を有効活用するために、時間を1時間早めること（時計の針を1時間早めるイメージ）
- 省エネの効果があると言われている

# 日本における歴史

- 日本でもかつてサマータイムを導入していた
- 1948年～4年間にわたって実施された  
期間: 4月第1土曜日～9月第2土曜日
- しかし、昭和27年に廃止された。

なぜ？

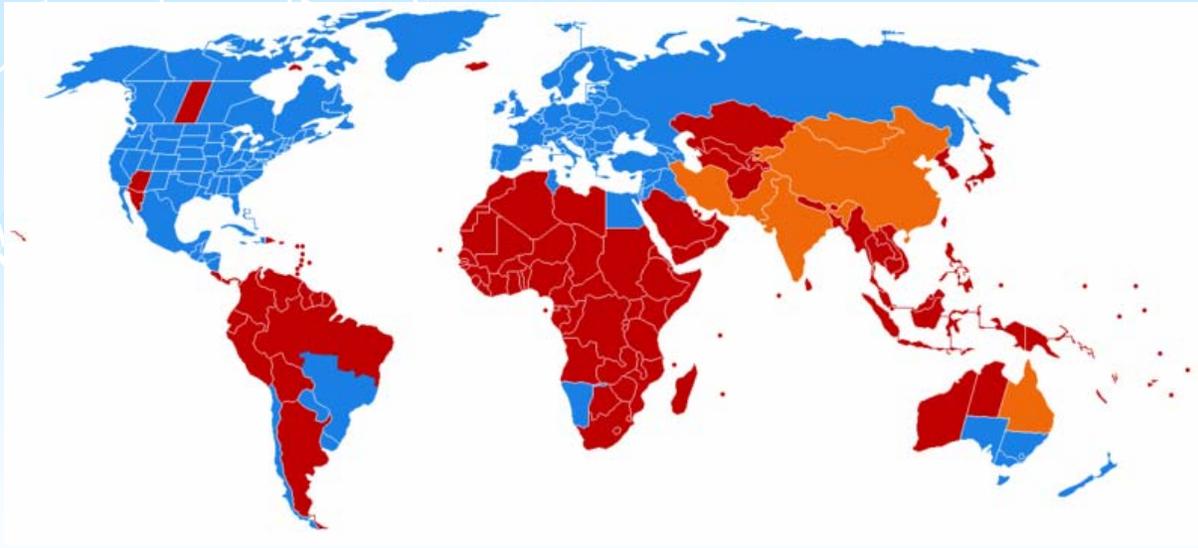
# 日本で受け入れられなかった理由



- 国民に不評
  - ・農業に適さない
  - ・通勤ラッシュの悪化
  - ・時計を直す煩わしさ
- 電力事情の改善

# 諸外国の導入の状況

- OECD 加盟国のほとんどで導入されている  
(導入していないのは日本、韓国、アイスランドのみ)



# 私たちの立場と提案

- エコタイムの導入に賛同  
日本にもサマータイム制度を環境政策の一環として全国規模で導入  
期間：春分の日～秋分の日
- エコタイム期間中の家庭用電力使用料金を値上げ

# エコタイムのメリット

- 経済への効果

余暇、レジャーの拡大による経済波及効果

: 約9,700億円

(生活構造改革フォーラムによる試算)

- 環境への効果

家庭用照明需要の減少などによる効果

: 約86.8万kl(原油換算)の省エネ

# 導入の際のデメリット

- 煩わしさがある
- 導入コストがかかる
- 第1次産業にとって、不都合が生じる
- 切り替え日の混乱
- 余暇需要拡大による増エネ

# デメリットの克服

- 煩わしさ、切り替え日の混乱  
⇒ 慣れの問題
- 導入コスト  
⇒ それ以上の経済効果が期待できる
- 増エネの懸念  
⇒ 省エネでカバー可能
- 国民のサマータイムへのマイナス意識  
⇒ エコタイムとして導入し、目的を明確にする

# 結論

- エコタイムの導入
  - ⇒余暇需要の拡大
  - ⇒省エネ
- エコタイム期間中の家庭用電気料金up
  - ⇒日照をより有効に活用
  - ⇒さらなる省エネ効果

## 補足：環境省では

- 京都議定書目標達成計画の中で「地球温暖化対策及び施策」の一環としてサマータイムの導入が他の対策とともに盛り込まれている。

(引用)

ライフスタイルやワークスタイルのあり方も含めて国民的議論の展開を図り、環境意識の醸成と合意形成を図ります。

# 参考文献

- ウィキペディア（英）  
[http://en.wikipedia.org/wiki/Central\\_European\\_Summer\\_Time](http://en.wikipedia.org/wiki/Central_European_Summer_Time)
- 省エネルギーセンター  
<http://www.eccj.or.jp/>
- 生活構造改革フォーラム  
<http://www.seikatukaikaku.jp/question/index.html>
- 環境白書  
<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>